

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDS ネットワーク横浜
〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 F
TEL：045-201-8808 fax：045-201-8809
ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>
e-mail：any@netpro.ne.jp



2020 思春期保健指導者研修会 ～ここに響く話をするために～

受講報告 中野久恵

2020年2月8日～9日の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された表記研修会に参加してきました。受講生は全国から集まった20名。

講師は、岩室紳也さん、北山翔子さん、宮崎豊久さんの3名です。2日間、伝えたいことを3分で話すというワークを3回行いました。自分以外の19名の話をして3回聞くという体験は初めてであり、きつけれど収穫の多い研修でした。

正解依存症とは？

岩室さんの開講に当たっての講義は、生徒に話すとき「正解依存症」に陥っていないかということ。この正解依存症は2日間何度も言われたフレーズです。予防の知識＝正解ではあるが、生徒にそれが伝わるか、本当に伝えたかったことは何？と常に問われました。

岩室さんの説明による「正解依存症」は、自分なりの「正解」を見つけると、その「正解」を疑うことができないだけでなく、その「正解」を他の人にも押し付ける、自分なりの「正解」以外は受け付けられない病んだ状態をいう。

若者が求めている性の教育は、生徒が聞いて（ここに）残ること、生徒が聞きたいことである。それは、事例や当事者の声や思い、経験談、感動体験、失敗談から得られるものである。このことを徹底して鍛えられた2日間であった。

2日間で3回、各3分間のワークを通して得られたもの

1日目、第1回目のワーク。私は、自分の腕を卵管、からだを子宮、両足間を膣と見立て、月経と受精の仕組みについて話しました。岩室さんからは、何を伝えたかったの？「正解」だけで生徒には残らないよ、岩室は、月経・射精・望まない妊娠の3つをセットで話すよ



うにしているとアドバイスをいただいた。経験だけを伝える、その経験から失敗してもいいんだ、ということが生徒に伝わればいいと話された。

19名のひとり一人が3分間のストーリーを話し、3名の講師からアドバイスがある。3分という時間の感覚をつかむことも課題。長すぎたり、短すぎたりする。3分の物語を10個持っていれば30分の話ができる。

2日目の午前中、2回目のワーク。私は、自分の腕をペニスに見立てて包茎の話をした。岩室さんからのアドバイスは、「ほうけい」という言葉を知らない生徒もいるということ。夏休み、保護者からの相談（高校生の息子がアルバイトでためたお金で包茎の手術を予約してきたという事例）を最初に話したほうが良い、ケア（包皮をむいて洗う）の話は不要でしょうとアドバイス。

昼食を受講生仲間ととりながら、午前中のワークの話で盛り上がる。それぞれが生きてきた歴史がワークににじみ出ている、各個人のもっと続きの話を聞いてみたい思いが募る。ある方から「中野さんの話を聞きたい！」と言われた。そうか、自分のつまづきや体験は話していなかったと気づく。

午後のワーク3回目。40年前、夫がイランへ長期出張していた際、2歳の長女と過ごすなか、第2子を妊娠中であつたが、切迫早産になり入院した。その時近所の方が長女を預かってくれて助けられた話をした。しかし、北山さんからは、イランのパーレビ王朝とか冷凍倉庫建設の話は不要でしょうとアドバイス。話が整理されていなくて、余分なものを話してしまう、何を伝えたかったのか焦点がぼけてしまう話になった。まだまだ、伝えたいポイントがつかめていないことが露呈した。

そうして2日間の研修が終わった。講師だけでなく、19名の受講生の方と学び合った時間は格別のものになった。感謝しかない！

インターネットの使い方ではなく、使う人づくり 思春期学会理事 宮崎豊久さんの講義から

大衆とは

- 大勢いること(mass man)
- 根無し草（トボスを失った人）
- 個性を失い何者でもない「群衆」




宮崎さんは、長年子どものインターネットトラブルを見てきて、どのようにすれば解決するのか、モラル教育をやっても子どもたちのトラブルは減らない。なぜ、減らないのか、ということを考えて続けた。そのことを考えるうえで時代を17～19世紀まで巻き戻しての講義でした。

この時期、何が起こったかという人口増加であり、人々は農村から都市部へ大量に移動してきた。その人たちのことを「大衆」と呼んだ。今までの生活基盤や伝統がない、まったく違う場所に行って、まったく違う人たちと仕事を一緒にやっていく、新しい時代に入った。そこで、ボトス（居場所）の喪失という問題が出てきた。個性を失い群衆化した人たちのことを、大衆の誕生であるとスペインの政治学者オルテガは考えた。そこで必要とされたのが近代教育の始まり。工場労働者に求められたのが命令に従って同じ作業ができる人、使い勝手のいい大衆が作られていった。大衆化の中で大量の人が操作しやすい模型が流行する時代を迎えた。

20世紀に入りマイケル・オークショットは、近代合理主義の技術的知識の知識観は、誤りだと批判した。知識には、技術的知識・実践的知識の2種類を唱えた。技術的知識は、ルール・原理のような正確に学ぶことのできる知識。実践的知識は、正確に定式として学ぶことは不可能であり、慣行や実践の中で表現され、その中でのみ得られる知識とした。ここで改めて2日間の研修が、書物に書いてある知識ではなく、実践や体験を通して語ることの大切さを学ぶ意味が理解できた。（後半の内容は私の力と紙面の都合により省略）

ANYの今年度を振り返って

事務局長 堀尾 吉晴

〈H I V・A I D Sの状況は〉

A I D Sの話題がマスコミにほとんど取り上げられなくなっています。でも、本会の電話相談にかかってくる数は減っていません。

新規感染者はやっと減少傾向に

日本での感染状況は右のグラフのようです。

統計を取り始めた1985年から右肩上がりが増加が続き、世界的に先進国での減少期に入った2007年以降も高止まり状況が続いていました。やっと2017年に1400人を下回り、減少傾向に入ったようです。2019年も上半期の統計では2018年を下回っています。

検査数はやや持ち直し

保健所等での検査数は2008年以降減少を続けていましたが、2016年から増加傾向にあります。

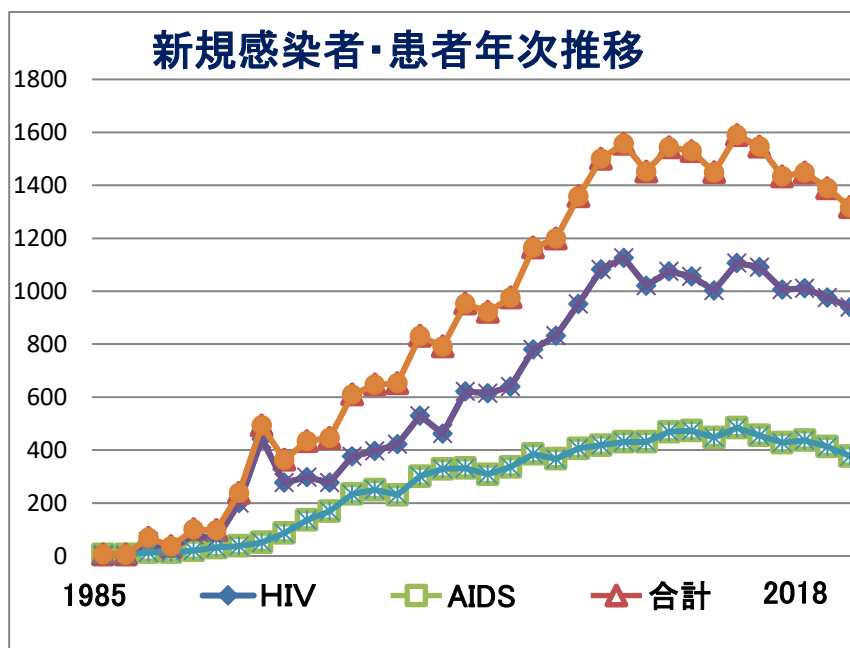
治療薬は良くなっているが、完治は未だ

治療薬の研究、改良が進み、H A A R TからA R Tになり、飲みやすく、副作用も減少し、健常者と同程度の寿命を手に入れられるようになっていきます。それはPep(暴露後予防)、Prep(暴露前予防)も可能にし、新規感染者の増加を防いでいます。しかし、体からH I Vを除去するには至っておらず、生涯投薬を続けなければならない状況です。薬価の高額も変わりなく、20代で感染し70代後半まで生きれば1億数千万円の医療費の負担になります。本人負担は諸制度を使って少額で済みますが、保健組合、行政の負担は大きくなります。2018年で、日本の感染者累計は3万人を超えました。

ウィルスが検出限界以下になり、他者への感染リスクがなくなっても完治できないのは、休眠CD4細胞によります。休眠を打破してウィルスを除去する、「キック&キル」の研究も始まっており、近未来には完治の可能性が見えるかも知れません。

90-90-90へ

U N A I D Sが、「感染者の90%が自分の感染を知り、その90%が治療を受け、さらにその90%がウィルス検出限界以下にし、その後95%が達成されれば、流行の終焉を宣言する」目標を掲げ



ています。ファクトシートでは、2018 で 79%、78%、86%の数値を上げています。日本では最初の 90 が未達成と言われています。検査数を伸ばすことが求められています。

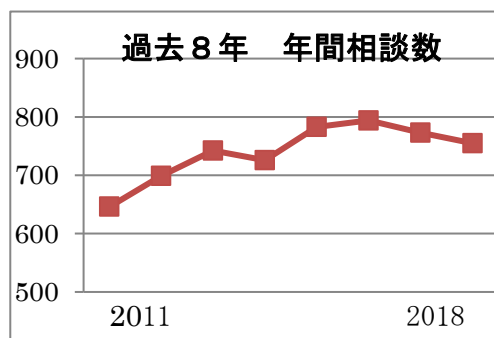
〈A N Y の活動〉

1993年に発足して、27年目が終わろうとしています。今年度の活動を振り返ってみます。

電話相談

水曜日 18～21 時と土曜日 15～18 時に「横浜市夜間休日電話相談」として行っています。年間約 750 件前後を受けていますが、今年度も全体の数、傾向に大きな変化は見られません。

本会の電話相談の特徴としては、女性からの相談が 15%と多いことがあげられます。相談員の女性の占める比率が大きいことが関係しているかもしれません。また、感染者の方からの電話は少なく、感染不安が多くを占めています。相談者の不安を軽減しつつ、検査に向かえるように心がけています。相談者の年齢層は 10 代～30 代で 75%を占めています。



A I D S ボランティア学校開催、A I D S 文化フォーラム参加

電話相談員養成講座である「A I D S ボランティア学校」を開催しました。「H I V と免疫」から始まり、多様な性、検査、陽性者の状況、S T I、看護、支援、出産、治療、カウンセリングを 5 日間、10 講座で、途中にランチョンミーティングなども入れて実施しました。延べ 188 名の参加があり、知識のアップデートに努めました。

その中の 2 講座を「A I D S 文化フォーラム in 横浜（かながわ県民センター）」を会場に行いました。

盛況ではありましたが、残念ながら電話相談員への登録をされた方はいらっしゃらず、新相談員を迎えることは出来ませんでした。

世界 A I D S デー in Yokohama 参加

12月1日の世界 A I D S デーに向けて、11月30日に横浜そごう前の都市センタープラザでの催しに参加しました。主催は横浜 A I D S 市民活動センターで、横浜 Y M C A、検査技師会、S H I P、AWC などの団体と共に行いました。

「レッドリボンって何？」という時代になりつつある中で、外へ出て活動することが特に若者たちにアピールするいい機会であることを実感しました。

出前講座

今年度は市内福祉センター職員を対象とした講演のほかに、高校 4 校、中学 4 校から依頼がありましたが、残念ながら中学 2 校はコロナウィルスの影響で中止となりました。延べで約 1,500 名の方にお話をしました。

以前は H I V の話は在学中に 1 回は聴けるようにと言う教委からの指導もありましたが、現在は多様な性、S T I 全般の話が要請されています。中高生には他にも消費者教育、D V 教育、交通安全教育・・・など、多様な要請がされています。H I V 関係講話の広がりが求められています。

出前講座（対象：中学校 3 年生）報告

中野久恵

今年度は、4校の中学校から出前講座の依頼があり、その内2校は新型コロナウイルスによる休校措置により中止となりました。

横浜AIDS市民活動センター委託で行った、H中学校での講話について報告します。

中学校とは、事前に内容について打ち合わせを行い、1月に15問の〇×クイズのアンケートを実施しました。アンケート結果をもとに講話を展開したいと当初は考えていました。しかし、アンケートを取ったことで生徒の理解度はわかりますが、「正解依存症」に陥らないように伝えるためにはどうしたらよいのかが私の課題でした。

生徒にとっては、最初で最後となる私の講話です、生徒の行動変容につながるような話ができるかどうか、体験を通した話を何か所か盛り込んだ組み立てにしました。

性って何だろう

自分たちのいのちの始まりを実感するため、針で穴をあけた黒い用紙を全員に渡して光に透かして見て、小さな光が見えたその大きさが命の始まり（受精卵の大きさ）と話を始めた。胎児が子宮の中で育つ様子を子宮の模型に見立てたプラスチック容器に37度のお湯と胎児人形を入れて準備しておき、胎児が胎盤を通して酸素や栄養をもらいながらも自分で血液を作りからだを大きくしてきたこと、羊水を飲んでおしっことして出し羊水をきれいにしていたことなど母体に支えられながらも自分で頑張ってきたことを話した。



生まれた時の性器の形による性別（性器の原型は女性型で性染色体により男女の性器に分化すること）、こころの性（脳の性）、表現する性、好きになる性の4指標でそれぞれの性を形作っていること、ひとり一人の性のありようはみんな違う、人の性は多様であり、自分もその中のひとりである。

思春期のからだ、月経・射精

思春期の発育は、個人差が大きく月経や射精が起こる時期の年齢幅が大きい。月経、受精、避妊をセットでアンケートの回答を交えながら説明する。月経周期・人工妊娠中絶が可能な22週未満の話は、実際に相談事例を交えて話した。

男子の悩みの上位である自慰（マスターベーション）は、経験数値のグラフを示しながら「してもOK、しなくてもOK」、男子も女子もしている自然な行為と話す。

夏休みのある日、保健室に卒業生の保護者が相談に見えた。「高校生の息子の様子がおかしいので問い正したら、アルバイトでためたお金で包茎の手術を予約している。本当に手術は必要なのでしょうか？」という相談だった。保護者に説明した内容を再現して説明する。



性感染症・H I Vエイズ

性感染症は、相手のある行為。感染経路は主に粘膜であるという基本的なおさえが大切。自覚症状が出ないのも特徴的なこと、検査でしか感染しているかどうかは確認できない。そのことが、「水の交換」のワークショップで確認できただろうか。



50 分の講話が終わった後、保健体育の教諭から自分がH I V検査を受けた時の体験が語られました。H I V抗体検査を受け、結果を待つ間、妻に移していないか、もし移していたら？息子はどのような？等、不安な気持ちを話してくださいました。経験したことの訴える力は大きいと改めて感じました。

〈生徒の感想文〉

- ・ ちゃんと自分のからだを大切にしていきたいと思った。からだの仕組みを理解しておくことは大事だと思う。自分のことをケアしていくことも大切だと思う。
- ・ 性のことをよく考えたことがなかったのととてもためになりました。何がダメなのかを知れました。
- ・ しっかりと自分の生き方を考えようと思える時間をありがとうございました。
- ・ 自分のからだはかけがえのないものだ改めて思いました。
- ・ 性はこんなに深い物語があるとは思わなかった。性感染症があるって聞いてめっちゃなんか怖くなりました。
- ・ 元は、男子も女子も同じということに驚きました。
- ・ 今日の知識から自分の生活を改めて見直したいと思います。
- ・ 保健美化委員として前に出てコップの水を交換したとき、まさか自分が感染しているなんて思ってもいなかったのですごく驚きました。
- ・ 自分が思っている性とは体が違う人、同性が好きな人、どちらも恋愛の対象の人達への偏見というのは、世界的には少なくなっていると思いますが、自分の周りの人達はいまだに偏見が強そうで悲しいなと思います。
- ・ 今日話を聞いて、まだ全然性のことについて知らなかったのだと自覚しました。
- ・ 性のお話を聞いて、自分のからだを大切にしなければいけないんだなと思いました。
- ・ 最初は、途中で寝てしまったことについてあやまりたいです。ごめんなさい。自分が聞いていた話の中で知らなかったことが多くありました。
- ・ 中3であっても性の認識・経験に大きな差があるので最初は小学生でもわかる性器の外見、受精、妊娠、出産から始まったこと、手作りの実物模型があったことはとても良かったと思う。その後に内容も分かりやすかったです。性感染症のシュミレーションもおもしろかった。（職員）
- ・ 中野先生に保健体育の授業で詳しく説明できていないところを知識としてだけでなく、生徒に寄り添った状態で講義いただき、悩んで話せないような生徒も救われたのではないかと感じました。これから心が色々揺れるなかで、正しい対応をすることの理解を深めることができ有意義な時間になりました。（職員）

電話相談件数		
12月41件	1月62件	2月61件

